事例No.	2705
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	兵庫県洲本市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・新たな政策手法の確立・活用 ・移住定住

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

兵庫県洲本市

出典

令和元年度ふるさとづくり大賞事例集

地方自治体表彰

兵庫県洲本市

定住促進　観光振興・交流　産業振興　コミュニティ
産学官連携　その他（再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰ）

概　要

淡路島では、エネルギー、農と食、暮らしの３つの持続を掲げる「あわじ環境未来島構想」を策定している。

大学がなく、若手人材が流出する洲本市では、複数の大学と連携し、売電利益を地域貢献に用いる太陽光発電所の設置、農業用ため池保全活動を観光化する「掻い掘りツアー」の開催、移住希望者ショートステイ受け入れのため空き家を改修し拠点化するなど、多様な取組を展開。学生や教員の実行力と市民や事業者の熱意の相乗効果で、同構想の実現を目指している。



【洲本市×６大学連携シンポジウム】

評価された点

・「あわじ環境未来島構想」を実現するために複数の大学と連携して課題解決を図る事業。太陽光発電所設置、観光体験ツアーの実施、空き家を利用した拠点づくりなどの成果をあげている。学習する地域を目指した活動は域学連携の模範となりうる。
・複数の大学との連携によって、若い力をうまく取り込み、島の活性化に成功している。住民との協働作業は若者にとって生きた学びの場となるとともに、住民が地域の魅力を再発見する機会ともなり、人口減少が進む島の未来を明るく灯すプロジェクトになっている。
・大学が地元にない中、複数の大学と連携して、地域資源を活用して活性化を図り多くの交流人口を獲得し、成果を出している。
・「あわじ環境未来島構想」のもとで、域外の大学等としっかりと連携して地域づくりを進められている点は秀逸。地域のみなさんが取組を通じて自信と誇りを醸成されており、関わった大学生が移住を始めるなど着実に成果がでている。



【ため池ソーラー発電所】



【学生滞在拠点「ついどはん」】